



ITU TSB局長の尾上誠蔵氏が2025 IEEE Jagadish Chandra Bose Medal in Wireless Communicationsを受賞

日本電信電話株式会社 やまもと ひろし
山本 浩司



ITU TSB局長（元日本電信電話株式会社CSSO）の尾上誠蔵氏が、2025年に新設されたIEEE Jagadish Chandra Bose Medal in Wireless Communicationsを受賞され、4月24日に表彰式典がヒルトン東京お台場ホテルで開催されました。こちらのコラムでは表彰概要と当日の式典模様についてお伝えさせていただきます。

1. IEEE Jagadish Chandra Bose Medalの概要

IEEE Jagadish Chandra Bose Medalは、2025年から新たに設立されたIEEEのメダルで、無線通信分野における卓越した業績を持つ人物に授与されます。このメダルは、無線通信技術の発展に寄与した業績を称えるものであり、尾上氏はその初代受賞者として、世界的な影響力を持つ無線通信技術の発展に貢献したことが認められました。

2. 尾上誠蔵氏の業績と経歴

尾上氏は、1982年に日本電信電話公社（現・NTT）に入社し、通信技術の研究開発に従事してきました。特に、W-CDMA（Wideband Code Division Multiple Access）方式を中心としたIMT-2000の開発において中心的な役割を果たし、これが後の3Gシステムの基盤となりました。その後、NTTドコモの取締役常務執行役員CTOや、ドコモ・テクノロジー株式会社の代表取締役社長を経て、2021年にはNTTのCSSO（Chief Standardization Strategy Officer）として、通信技術の標準化戦略を統括しました。2023年からは、国際電気通信連合（ITU）の電気通信標準化局長に就任し、国際的な標準化活動をリードしています。

3. 受賞理由と国際的な影響

尾上氏の受賞理由は、3G及び4G携帯電話システムの研究開発と国際標準化におけるリーダーシップにあります。特に、W-CDMA方式を中心としたIMT-2000の開発において中心的な役割を果たし、これが後の3Gシステムの基盤となりました。また、4Gシステムにおいても、LTE（Long Term Evolution）やLTE-Advancedの標準化に貢献し、世界的な普及を促進しました。これらの業績は、通信技術の進化と普及に大きな影響を与え、現在のモバイル通信環境の基

盤を築くものとなっています。

4. 表彰式典の様様

表彰式典には、高円宮久子様を筆頭に、阿達総務副大臣並びに各業界のキーパーソン約450名が参加された非常に壮大なものであり、改めてIEEEメダルの格式の高さを認識させられるものでした。各受賞者のショートスピーチが行われ、尾上氏からは受賞功績概要のほか、ご家族並びに関係者への感謝のお気持ちが示されました。



■ 図1. 尾上氏の受賞アナウンス画面



■ 図2. 尾上氏ショートスピーチ模様



■ 図3. 尾上氏（with メダル）